

# 若い木でも果実が多く穫れる モモの仕立て方を開発しました

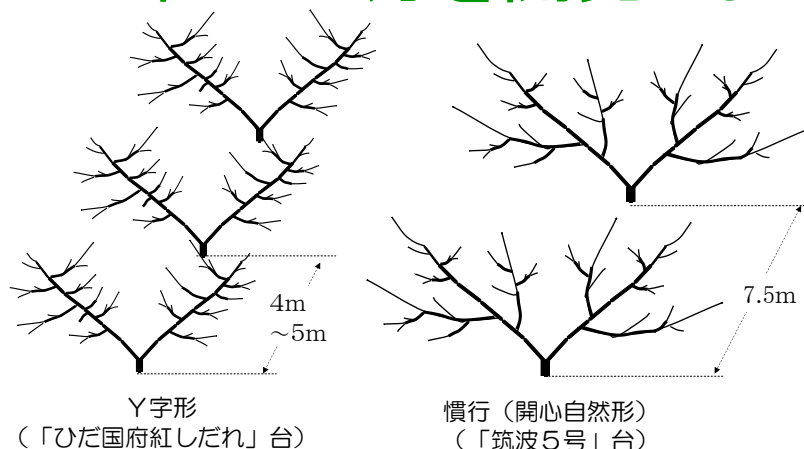


図1 Y字形と慣行（開心自然形）の樹形イメージ

表1 樹形及び栽植密度の違いが「清水白桃」の5年生時の果実重及び糖度、若木期（5年生）までの合計収量に及ぼす影響（2016～2020年）

処理区	5年生時 果実重 (g)	糖度 (° Brix)	若木期（5年生） までの合計収量 (kg/10a)	
				5年生時 果実重 (g)
Y字形	5m	303	13.4	2246.4 (145.6) <sup>2</sup>
	4m	311	13.1	2469.4 (160.1)
慣行	7.5m	309	13.5	1542.8 (100.0)

<sup>2</sup> ( ) 内の数字は慣行を100とした時の対比を示す

## 開発のねらい

モモの栽培では、定植後の5年間ほどは果実の収穫量が少なかったため、その期間に増収となる仕立て方を開発しました。

## 新技術の概要

- 「ひだ国府紅しだれ」という品種を台木に用い、列状に4～5m間隔に植えます。新しい仕立て方では、太い枝を2本だけ伸ばしてY字形の樹形にします（図1）。
- 新しい仕立て方では、植える本数が多いので5年までの収穫量の合計が今までの仕立て方の1.5倍になります（表1）。
- 収穫できる果実の品質は、仕立て方が違って差は認められません（表1）。

## 活用場面

本技術は岡山県内全域のモモ栽培に適用できます。特に、複雑な形状の園地や、狭小な園地での土地利用効率が高くなります。また、樹高が低く維持できるので、軽労化につながります。新規就農者にとっては、初めの5年間の所得の改善につながります。